

道標ない旅

自分も人も大切に

～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～

回覧



令和2年度地域版 第8号
2020.12.8発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 11/11 に第2回学校評議員会兼学校関係者評価委員会が開かれました。 ◆◆

今回は、皆様からのアンケート結果等をもとにして、学校運営方針である

- (1) 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校
- (2) 豊かな心を育み、信頼で繋がった学校
- (3) 地域を愛し、地域から愛される学校

と、(4) いじめ防止に向けた対策について、その成果についての検証を行っていただきました。その結果を紹介したいと思います

(1) については、「小中連携の9年間の実現は大賛成、長柄・南郷ならできると思う。実際にやっていく必要があると考える。」「よくTVで『考える授業』とか聞くようになった。まだ身についた大学生等が育っているとは思えない。小学校から培っていく必要がある。」「今の20代から30代前半の人には身につけ始めている世代に感じることもある。考えて、利用して、取り入れて、発信することができている事例をよく見かける。」といった、委員からのご意見・感想をいただきましたが、以下のようにまとめることで承認をいただきました。



<見解と改善方策>

職員アンケートでは、「小中連携を意識した教育課程の編成が出来たかどうか」を問うている。本校では、職員会議において、町として小中一貫教育の構想を現実的に捉えていることを発表している。それ故、本当に教育課程の編成に取り組んでいるかの観点で評価した結果、数値が大幅に落ち込んだと考える。一方、コロナ禍においても、他の項目は向上傾向にある。特に著しいのが「校内研究の充実」である。多くの教員の意識がはっきり変わったことが見て取れる。その自信や、総合・生活への授業実践を通し、「主体的・対話的で深い学び」「育む授業への授業改善」の項目も向上したと考えられる。

児童アンケートを通して、話し合い活動に活発に取り組んでいるという実感があるように感じられる。それは保護者においても、児童の話や、学級だより等を通して、同様の実感を得ているように感じられる。「主体的対話的で深い学び」を実現するには、今年のコロナウイルスは大きな影を落とし、障害となっていることは間違えない。とはいえ、その実現については校内研究の研究対象の「総合的な学習の時間」は、最も適した教科である。今後もしっかり研究を続け、楽しく学び甲斐のある授業実践を通し、成果を上げていくことが重要である。

(2) については、「教職員の捉えと、児童の捉えに多少の落差があるのは仕方ないかと思うが、独りよがりになってはいけない。指導の方法についても、小中一緒になって講習を受ける機会を持ちたい。」といったご意見をいただきましたが、伝え続けていってほしいという要望のもと、以下のようなまとめを承認いただきました。



<見解と改善方策>

まず校長として、学校教育目標の「自分も人も大切に」をことあるごとに引用して、教職員・児童・保護者・地域の意識改革が進むように、意識しているがその意識は継続していきたい。

さて、職員アンケートでは、基本的にどの項目も6月時点の評価を上回り、高い評価が多かった。特に、「ちがいを大切にしている」3.77、「相談しやすい」3.63、「熱意を持った指導・支援」3.75が、高い評価になった。注目すべきは、児童アンケートにおいて、「ちがいを大切にしている」の項目は、3.12という低い評価になった。この認識の差は課題と捉えるべきである。

授業参観等がなく、状況を把握しにくかった保護者の評価は、どの項目も同じような数値で、大きな差が特徴として表れては来ていない。しかし、差が出た児童と教職員の意識の差は、実感を伴っているだけに重要と考える。児童への質問事項はないものの、「一人ひとりのちがいを大切にしている」と似た傾向にある「相談しやすい」「熱意を持った指導・支援」についても同じことが起こっていたかも知れないという認識を持って、今後臨む姿勢が大事であると考えます。

なお、アンケート項目にないため見えづらいが、教育相談コーディネーターが役割をよくこなし、教頭と協働して、他機関と連携したケース会議を次々と実施し、成果を上げていることも見逃せない。引き続きこの体制・成果を維持していきたい。

(3) については、「地域から愛される学校づくりのために、何をアクションするのか？お祭りなど地域の方々も足を運べる企画（具体策）が無いと、いつているだけになってしまわないだろうか？」という質問に対し、

校長からは、「行事・イベントとかよりも、学校が信頼される、安心して通わせられる心のよりどころになれるようにと考えている。地域とも連携がとれて、情報が知ってもらえている透明性があることが大切と考えている。やがて地域の核として、求められ頼られる学校を目指している。具体でいうと、やや消極的なアプローチではあるが、「地域から嫌われない学校」を目指しています。御霊神社の裏道の安全確保など、交通安全の学校としての責任を果たすことや、違法駐輪のない地域から迷惑がられない運動会を開くことなど、迷惑施設に思われないことが大切で、具体的に行動しています。」また、教頭からは、「総合的な学習の時間の中で、地域とつながる活動を実践し始めたことは具体例となるだろう。ゲストティーチャーの前授業や、地域に出て良い学びを得ている。」と回答しました。これらの質疑を通して委員さんたちからは、「そういった実践を地域にどんどん発信した方がよい。それが大切。」「スクールサポーターの方々の見守りがとても有難い。子どもが安心して通えている。」などのご意見ご感想も頂きました。そして、以下のようにまとめることで承認をいただきました。



<見解と改善方策>

職員アンケートの分析指標項目は、いずれも数値の向上が見られた。その中において、特に注目されるのは、「安心安全な学校生活」「コミュニティスクールへの準備」「チーム長柄」における向上である。その特徴は、AやBを選んだ教職員の数が大きく増えている傾向にあることである。例えば「コミュニティスクールへの準備」については、6月は、A：0人、B：12人であったのが、A：8人、B：15人と、向上を認める教職員が増えている。同様に、「チーム長柄」についても6月のA：6人、B：13人が、A：14人、B：15人と増えた点が、評価の向上につながった裏打ちとなっている。

これに対し、児童アンケート項目はないので、保護者アンケートで対比すると、実際に見ることがほとんど無かったことから、児童の話や、学校・学級だよりから類推した回答の結果、特徴の見えにくい無難な結果が出そろうている。特に、「チーム長柄」については、「分からない F」を選んだ保護者が109人おり、正直にそして、真摯にアンケートに臨んで頂けたことが推察された。

学校（校長）としては、実感として捉えている教職員の回答状況を維持しながら、「地域を愛し、地域から愛される学校」の実現に向けて一層の努力を続けていきたいと考える。

(4)については、「学校で一番心配なのがいじめ。1年でのいじめで2・3年と通えない児童など居ると聞く。」「いじめの認知件数は？」という質問に教頭から「今年度前期で、約10件。その中で、数件は、学校としてケース会議を開く場合があったり、フリースペースと繋がったりしながら解決を目指しています。」と回答がありました。校長からは、「余談ながら、いじめの件数なども、コミュニティ・スクールになったら、町教委に報告する資料を扱って、審議するようになるだろう。」との説明がありました。その他、「いじめに地域性はない。いじめをどう克服していくか、大人でもいじめはあるので。」といった意見もありました。「いじめについては、長柄一南郷で連携を取ってほしい。先輩後輩など、その年に生まれた運命的な面もある。上下関係の状況にも注目してほしい。」という要望のもと、以下のようなまとめを承認いただきました。



<見解と改善方策>

職員アンケートは、大変高い数値が出ている。教職員の意識としてはとても良い状況であることは間違いなく、健全な学校を維持していく上での大きな原動力になると考える。その中であえて課題を見つければ、「いじめは絶対に許さない態度で指導」と「いじめの早期発見・早期解決に努めている」では、Aの人数が6人へり、Bと回答している。意識は充分にあるのだが、「早期発見・早期解決」につながったか、自信の無い教員が6人居たと解釈することも出来る。

このことは、児童アンケートで、C：27人、D：9人 計36人が否定的な回答を選んだこと、保護者アンケートの「いじめは絶対に許さない態度で指導」で、40人、「いじめの早期発見・早期解決に努めている」で、56人が否定的な回答を寄せたこと、自由記述において、2件の具体的な指摘があったことと無関係ではないと考える。

教職員の意識はこのままで、「早期発見・早期解決」で一層の努力、一層の成果を上げていくことが目標となる。そのためには、アンテナを高く持つこと、担任教師の孤立を防ぎ「チーム長柄」でサポートする体制を維持すること。小さなことでも見逃さない学年・学校間での報告・連絡・相談の意識の強化が必要であると考える。

このほか、代表として委員にご参加頂いた10月2日のコミュニティ・スクール学習・説明会については、「地域の方にも広めてほしかった。もったいないくらい。保護者や地域にも興味を持っている声がある。地域でもやってほしい。」「講演に感動しました。やりましょう。」といった声を頂きました。

また、運動会については、「検温が、思ったよりスムーズだった。」「見学者の入れ替えなどの交代は良いと思った。スムーズだった。来年以降も取り入れてはいかがか。」「朝の弁当づくりがないので、パワーが残っていた。例年は見る事のない、他学年の種目も飽きずに見られて良かった。」といった声も寄せられました。